

10-1 歌舞伎町一丁目エリア

歌舞伎町エリアは、明治時代には旧大村藩主の別邸があり、大正時代には府立第五高等女学校が建てられました。太平洋戦争では一面焼け野原となったものの、戦災復興でエリア全体の区画理整が行われ、「市民交歓の場」としての広場（現シネシティ広場）やT字型街路など、先駆的な都市計画がなされました。また、世界的にも有数の娯楽・繁華街となっています。



景観特性

歌舞伎町に隣接する西武新宿駅は、駅舎の煉瓦色のタイルや街路灯により落ち着いた景観をつくっています。



靖国通りからエリア内の入り口にゲートが設けられている場所もあり、通りの個性を演出しています。



新宿区役所の外構や区役所通りでは、居心地のよい景観づくりが必要です。



中層で間口もさほど大きくない建築物の規模が、人付き合いを基本とする歌舞伎町らしい商売を支え、賑わいを生み出しています。また、小規模な看板の集まりが、賑やかな歌舞伎町独特の景観を創出しています。



大衆文化の発信地である歌舞伎町のシンボルとなるような空間の創出を図る。



1. 特徴ある街路空間



意図的な都市計画によりつくられたT字路によって、一体感の感じられる道路基盤があります。そのためまちなみの賑わいが周囲に散逸しないことが最大の特徴となっています。しかしながら、各通りごとの特徴は現在薄くなり、エリア全体として同質化が進んでいます。

2. 市民交歓のための広場



日本における広場は、駅前広場や交通広場が大多数を占めており、シネシティ広場のような、市民の交歓を目的として設計された広場は希少です。周囲を取り囲む建築物の低層部は、広場を意識した開放的な意匠とすることが必要です。広場空間も、滞留したくなる工夫が必要です。

3. 繁華街と区役所通り周辺の対比



世界的な繁華街の中に、区役所や都電線路跡である四季の路（新宿遊歩道公園）があります。繁華街の中の貴重な公共的空間となっています。

景観形成の目標

誰もが歩きたくなる楽しいまちなみ“歌舞伎町”へ

戦後の戦災復興区画整理事業を経て、繁華街として一時代を画した歌舞伎町を新しい時代の繁華街として再生させる。

景観形成の方針

1. エンターテインメントシティ「歌舞伎町」を演出する

景観形成の考え方

現在のまちなみの賑わいを損なわない演出を行う。

具体的な方策

- 形態意匠および色彩は周囲の賑わいを損なわないものとする
- 夜の照明は、華やかな賑わいを連続させるものとする
- 西武新宿駅前の広場は、滞留空間と歩行者動線を確保する



西武新宿駅前の広場

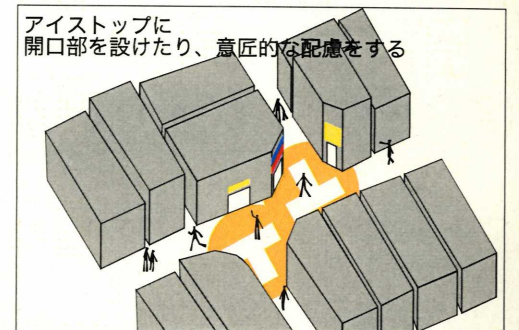
2. T字路いかした迷宮的楽しさを演出する

景観形成の考え方

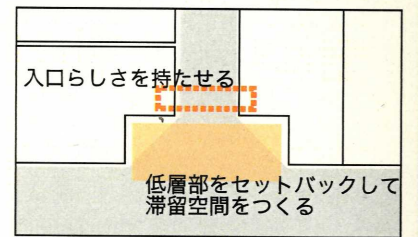
エリア内に多く存在するT字路をいかして、各通り（1番街・セントラルロード・さくら通り・えび通りなど）の個性を演出する。

具体的な方策

- アイストップとなる場所では、積極的にまちに対して楽しさを提供する
- 靖国通り沿いの角地に位置する場所では、エリアの入口にふさわしい形態意匠および色彩とする
- 各通りの角地に位置する場所では、通りのイメージを特徴づける工夫をする
- 壁面線の連続性に配慮する
- 壁面の分割化を図り、長大な壁とならないよう配慮する



T字路をいかす



靖国通りから歌舞伎町への入り口

3. 魅力あるシネシティ広場を演出する

景観形成の考え方

シネシティ広場を囲む中心街区にまちなみの核となる魅力ある賑わい空間を創出し、大衆文化・娯楽の企画、制作、発表のまちとして、その魅力がまち全体に広がるようにする。

具体的な方策

- 市民交歓の場としての歴史性や象徴性を大切にする
- 西武新宿駅とシネシティ広場を囲む中心街区の連続性に配慮する
- シネシティ広場周辺では、低層部は広場とのつながりを感じられるような開放的な意匠とする
- セントラルロードでは、街路樹の整備などを行い、快適な歩行者空間の形成を図る

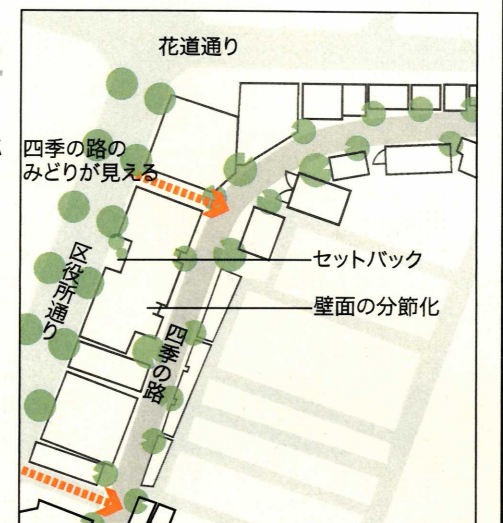
4. みどり豊かで賑わいのある四季の路の景観をつくる

景観形成の考え方

みどりの豊かな四季の路沿いに、みどりと調和し心地よい賑わいが感じられるまちなみをつくる。

具体的な方策

- 四季の路から見える場合は、みどりと調和する落ち着いた色彩や素材とする
- 四季の路沿いでは、四季の路に対して正面性をもたせる
- 四季の路沿いでは、四季の路の緩やかなカーブが感じられるよう間口を分節する
- 室外機等の設備機器は、四季の路から直接見えないようにする
- 区役所通りや四季の路沿いでは、四季の移ろいを感じさせる工夫をする（花いっぱい運動やイルミネーションなど）
- 区役所通り沿いでは積極的に緑化を行い、快適な歩行者空間をつくる



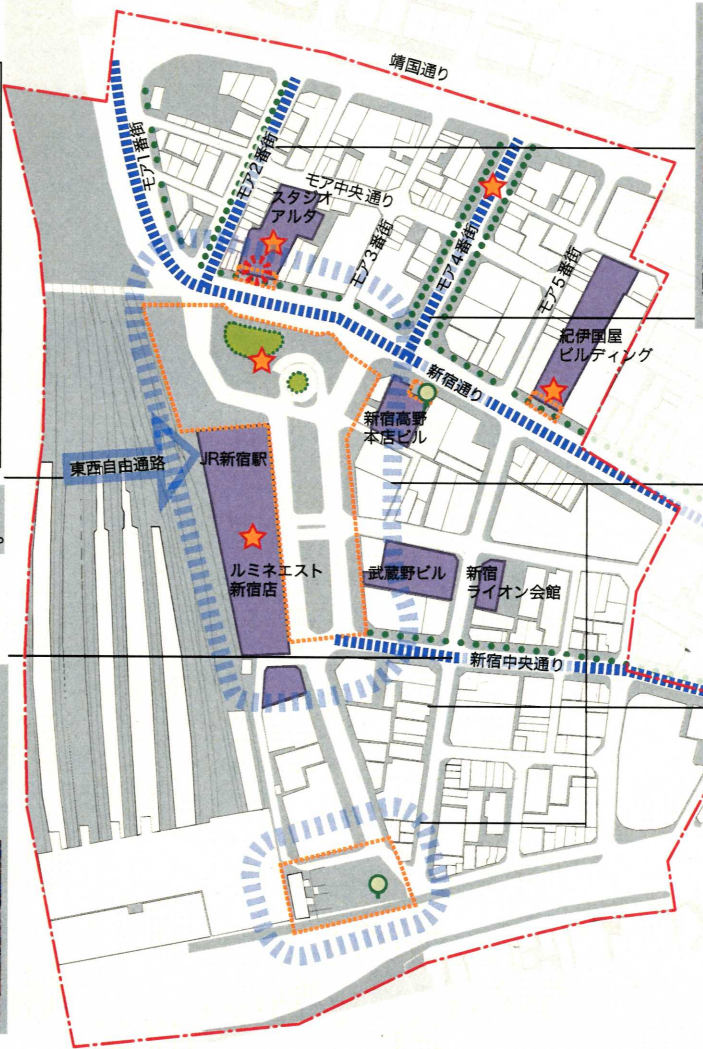
10-2 新宿駅東口エリア

東口エリアは、江戸五街道の1つである甲州街道の宿場町「内藤新宿」として始まりました。太平洋戦争で一面焼け野原となったものの、戦災復興を経て現在も日本有数の繁華街として賑わい続ける歴史あるエリアです。特に、新宿通りは建築物の軒線も揃っており、歴史的建造物も点在する風格ある通りとなっています。



景観特性

- 【凡例】
- 地域を象徴する建築物
 - ★ アイストップ
 - ★ ランドマーク
 - 重要なみどり
 - 連続するみどり
 - まとまったみどり
 - 景観上重要な道路
 - 東西自由通路
 - 景観上重要な都市空間
 - まちなみの大幅な変化が予想される場所
 - エリア境界



MOA2番街は中央に、MOA4番街は両端にケヤキ並木を列植している個性的な通りです。通り沿いは、ケヤキのみどりを引き立てるような形態意匠および色彩であることが必要です。



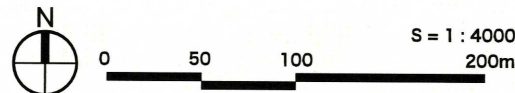
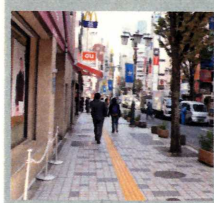
新しい新宿の顔として広場の整備を行います。またその際には、滞留空間と歩行者動線を適切に分離します。

各商店会ごとにそれぞれ、街路灯や道路舗装など工夫を凝らしています。各商店会ごとの個性を出しながらも、エリア全体として統一感が必要です。



新宿駅東口と西口の回遊性の向上を図る。

新宿通りと甲州街道の中央に位置する新宿中央通りは、片側に街路樹の整備された通りとなっています。



1. 回遊拠点としての駅前広場



日本一の乗降客数を誇る新宿駅の東口は、昼夜を問わず多くの人が行き交う賑やかな景観となっています。今後は、多くの人波を受け止めるのに十分な滞留空間の確保や、適切な歩行者動線の分離が必要です。

2. 新宿通りの風格と賑わい



新宿通りに面した建築物のスカイラインや軒線が揃っていることを、歩行者が強く感じられる景観となっています。また、低層部は開放的な意匠となっており、賑わい景観が通り沿いに連続しています。基本的に壁面線も揃っていますが、低層部のみを後退させ魅力的な滞留空間も点在しています。

3. 歴史を感じる多様な景観資源



歴史的建造物やMOA街などの特徴ある道路景観、日本で3つしかない国民公園である新宿御苑など、エリア内や周辺には多数の景観資源が存在しています。これら景観資源の魅力を十分に引き出す工夫が必要です。

